

わかりやすい



尼崎市

障害福祉計画

障害者計画 (の中間評価)



この冊子は、障害のある人が自分らしく安心して地域で暮らしていくために“必要なこと”や“手助けしてほしいこと”について、尼崎市がその取組みを進めていくため、『必要な福祉サービスのこと（尼崎市障害福祉計画（第7期）：2024年度から3年間）』をまとめた計画と、『障害のある人の暮らしを支えること（尼崎市障害者計画（第4期）：2021年度から6年間）』の進み具合（中間評価）などをわかりやすくまとめたものです。

※ よりくわしい計画の内容を知りたい方は、別冊の「施策推進編」もあわせてご覧ください。

この計画ができるまで

この計画をつくるにあたって、もっとも大切にしてきたことは、障害のある人のお声やお考えをしっかりと聴くことです。

尼崎市では、障害のある人との話し合いやアンケートを行うことで、生活の状況やサービスの利用のこと、ご本人の障害やおからだのこと、日々の困りごとや大切に考えていることなどについて、たくさんのご意見をお伺いしてきました。

また、その内容などについて、障害のある人やそのご家族、地域で支援に携わる人などが参加する会議の場で話し合い、一緒に考えながらつくってきました。



障害者福祉等専門分科会

計5回の会議で意見をいただきました

パブリックコメント

〇人から計〇件の意見をいただきました

計画策定部会

計2回の会議で意見をいただきました

市民説明会

計〇〇人に参加をいただきました

手話言語条例施策推進協議会

計4回の会議で意見をいただきました

自立支援協議会

計5回の会議で意見をいただきました



個別調査

市内の障害児通所支援サービスを利用されている方にご協力いただき、個別に調査を行い、

計616人から回答をいただきました

※障害児童通所支援の利用についてお伺いしました。

アンケート調査

市内に住む障害のある人を対象にアンケートを実施して、

計3,013人から回答をいただきました

障害のある人やそのご家族、支援に携わる人はもちろんのこと、このまちに住むすべての人にこの計画をご覧いただくことで、障害のある人のことや、尼崎市がこれから取り組んでいくことについて、少しでも知ってもらえる機会になればと考えています。

障害のある人の状況を知ろう

《障害のある人の状況》



尼崎市の人口463,236人(令和2年3月末現在)のうち、身体障害のある人が22,622人、知的障害のある人が5,293人、難病患者数(小児慢性特定疾患・特定疾患)のある人が5,437人、療育手帳所持者が4,169人

更新

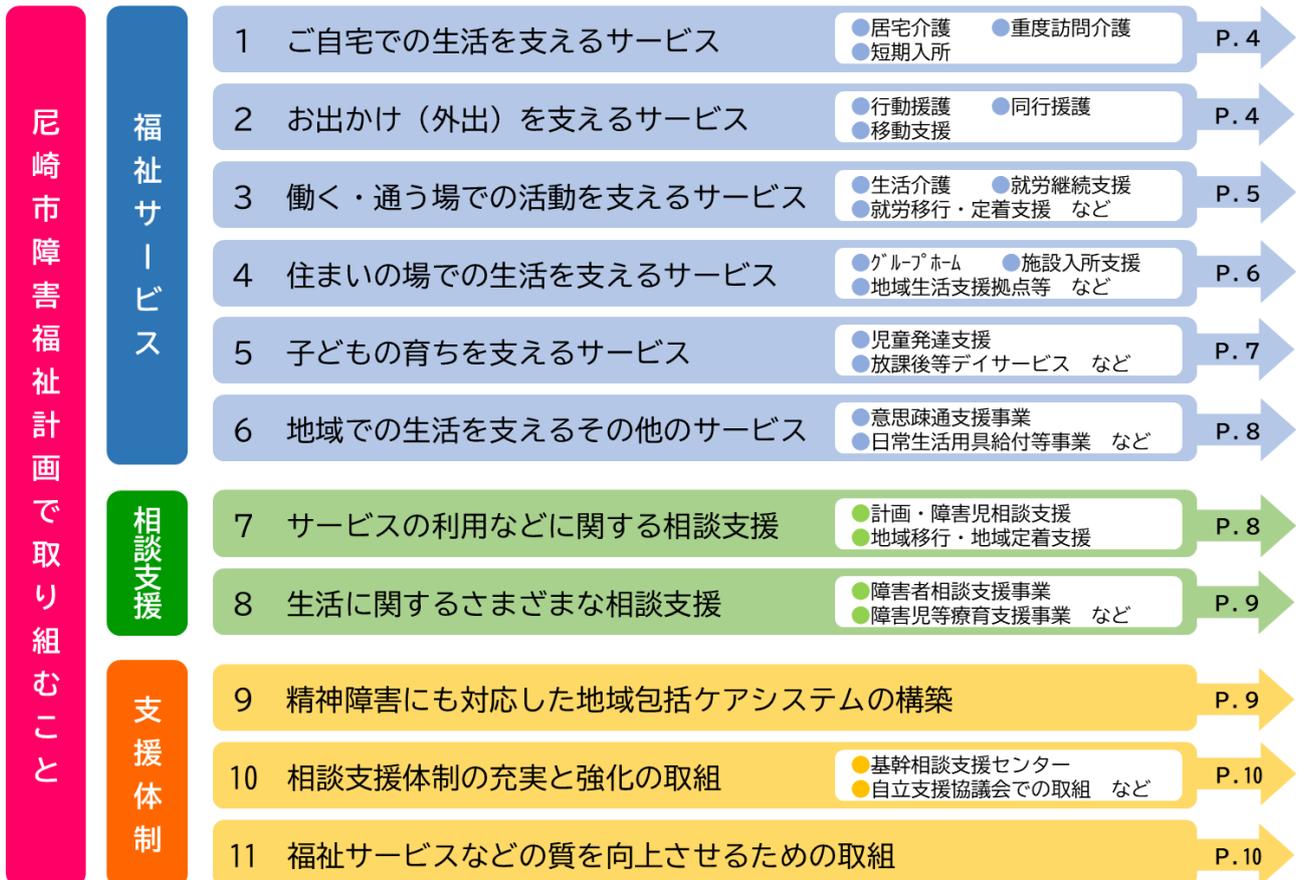


この計画がめざすこと

1 障害福祉計画でめざすこと

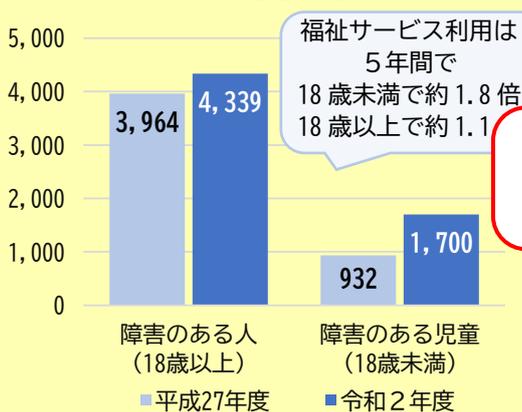
この計画では、障害のある人やそのご家族が地域で安心して生活するために、尼崎市ではどのくらいの福祉サービスなどが必要なのか、また、それらサービスなどをしっかりと提供していくために、どのような取組みを進めていく必要があるのか、その内容などをまとめています。

計画の体系図



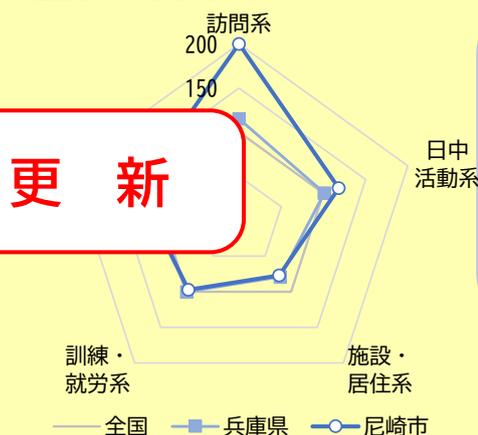
尼崎市障害福祉計画で取り組むこと

「福祉サービスの利用状況」



「福祉サービス利用者の状況（人口千人あたりの利用者数）」

※全国を100とした場合の指数



更新

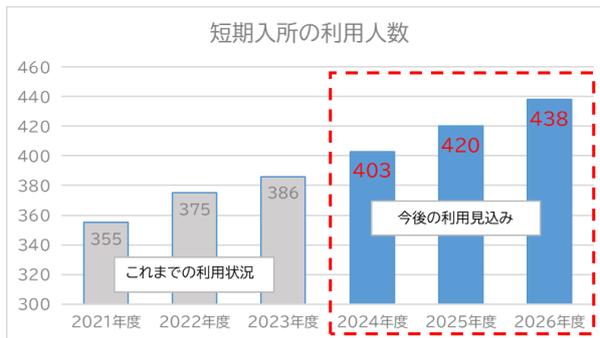
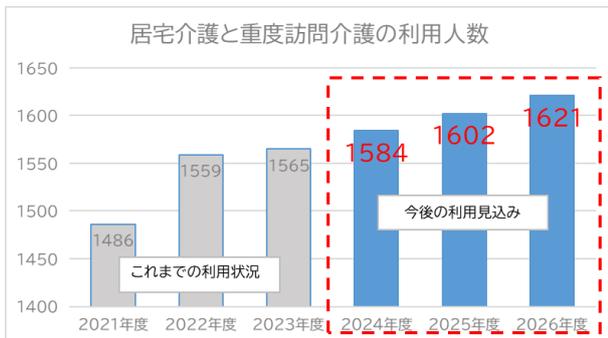
尼崎市では、
○自宅での生活を支えるサービス（訪問系）
○働く・通う場での活動を支えるサービス（日中活動系）
○子どもの育ちを支えるサービス（障害児通所）
が充実しているね



1 ご自宅での生活を支えるサービス

からだの状態やご自宅での状況などをしっかりとお聞きすることで、その人の生活に合った必要なサービスを提供していきます。

これまでの利用状況と今後の見込み

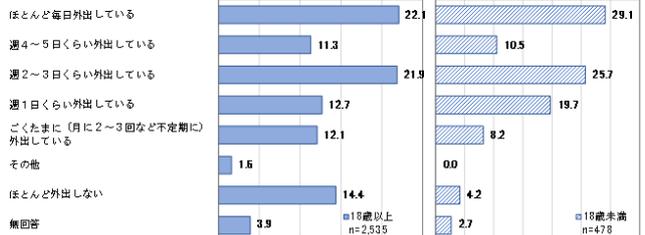


そのために尼崎市が取り組むこと

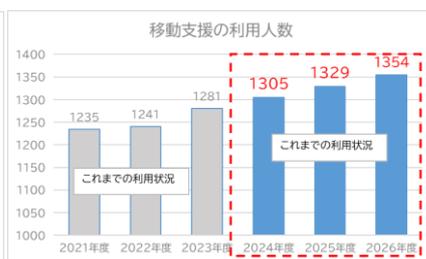
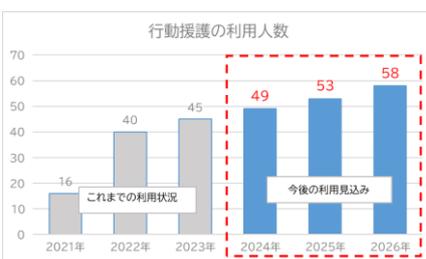
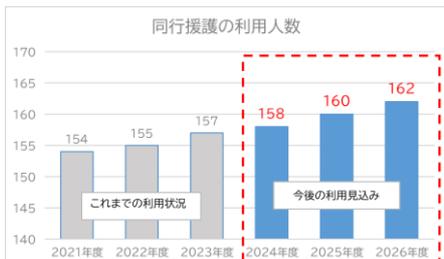
- ▶ 「基幹相談支援センター」が中心となり、市のガイドライン（支給決定基準）に基づいて、適切な支給決定に努めます。また、事業所に対する実地指導などを通じて、サービスの質の向上にも取り組みます。
- ▶ 「短期入所」については、重度の障害のある人が利用できるよう、施設のバリアフリー改修などの費用を支援するなどして、施設の設置につなげます。

2 お出かけ（外出）を支えるサービス

お出かけや社会参加を支援するため、その人の障害特性や支援の度合いにあわせた適切なサービスを提供していきます。



これまでの利用状況と今後の見込み



そのために尼崎市が取り組むこと

- ▶ 『行動援護』については、移動支援を利用する重度の障害のある人の移行を進めます。また、『同行援護』については、サービスを利用しやすくするために運用方法を変更しているので、その内容の案内を丁寧に行います。
- ▶ 『移動支援』については、・・・検証します。



これらのサービスを確保していくことなどで、達成へとつなげていく目標

入所施設を利用する人の削減数 → **13人以上**

3 通う・働く場での活動を支えるサービス

一人ひとりの能力にあわせて、その人らしく働き、活動ができるよう、通う場でのサービスをより良いものにしていきます。

これまでの利用状況と今後の見込み



そのために尼崎市が取り組むこと

- ▶ 「生活介護」については、重度の障害のある人が利用できるよう、施設のバリアフリー改修などの費用を支援するなどして、施設の設置につなげます。
- ▶ 就労継続支援などについては、「障害者就労・生活支援センターのみり」が中心となって、障害者就労施設の製品などの紹介や販売会（尼うえるフェアなど）の取組を進めます。



これらのサービスを確保していくことなどで、達成へとつなげていく目標

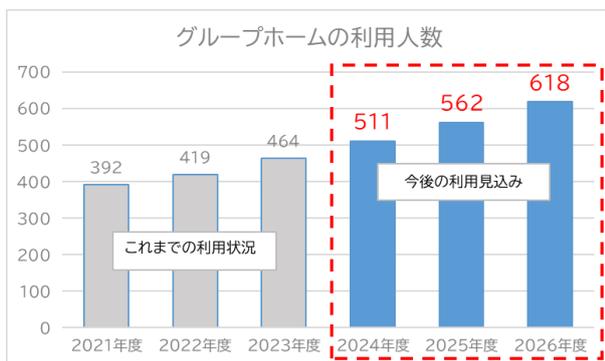
就労移行支援など福祉施設を

利用して企業へ就職した人数数 → **77** 人以上

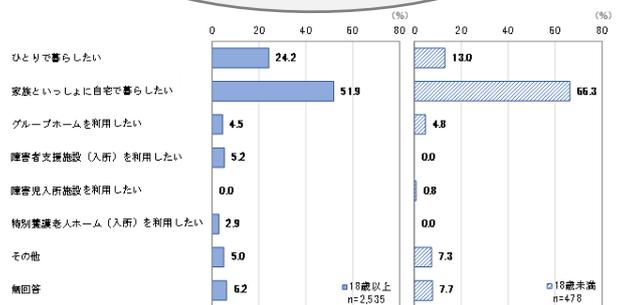
4 住まい場での生活を支えるサービス

地域での自立した生活を支援するため、その住まいの場となるグループホームの利用と整備や、障害のある人の生活を地域全体で支えるサービス提供体制（地域生活支援拠点）の充実を進めていきます。

これまでの利用状況と今後の見込み



在宅での生活を希望する人が多くいるね。ご自宅での生活を支えるサービスが必要だね。



そのために尼崎市が取り組むこと

- ▶
- ▶



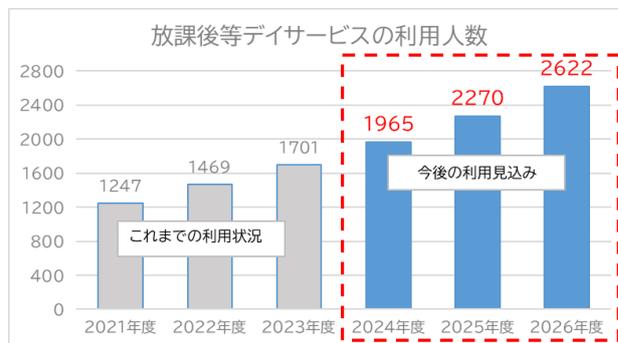
これらのサービスを確保していくことなどで、達成へとつなげていく目標

地域生活支援拠点の確保と機能の充実

- ◎ 拠点機能のコーディネーターを配置 → **6** 名
- ◎ 運営状況の検証など → 年 **1** 回以上の実施

療育が必要な子どもたちが通う場でのサービスをより良いものにし、通学先や保護者とのつながりを大切にする事で、切れ目のない支援につなげていきます。

これまでの利用状況と今後の見込み



児保護者向けアンケート①



児保護者向けアンケート②

そのために尼崎市が取り組むこと

- ▶
- ▶
- ▶

これらのサービスを確保していくことなどで、達成へとつなげていく目標

児童発達支援センターの設置数 → **3** か所



特に市立のセンター「たじかの園」については、

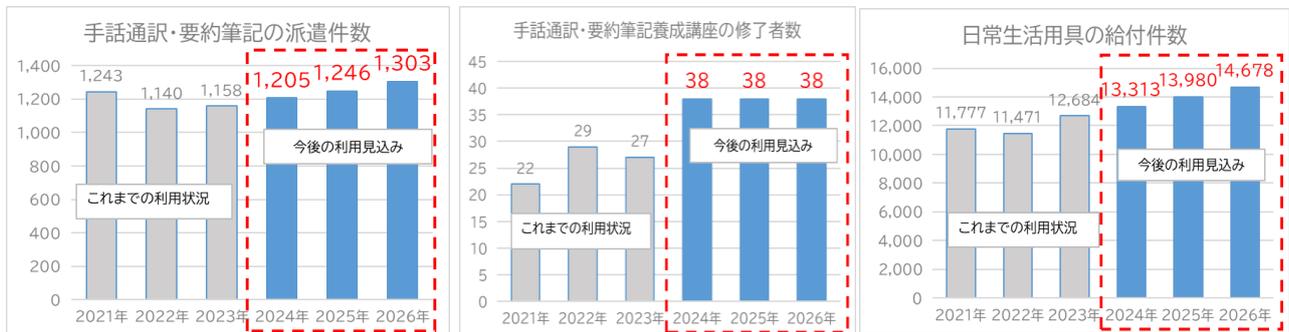
- ◎ 地域の指定事業所が参画する**ネットワーク会議**の定期的な開催
- ◎ 地域に開かれた**診療所**体制とその機能充実
- ◎ . . .

などの施設機能や支援の充実・強化に取り組んでいきます



そのほか、障害特性に応じた意思疎通の支援や自立した生活を支援する用具の給付など、さまざまなサービスにより障害のある人の地域での生活を支えています。

これまでの利用状況と今後の見込み

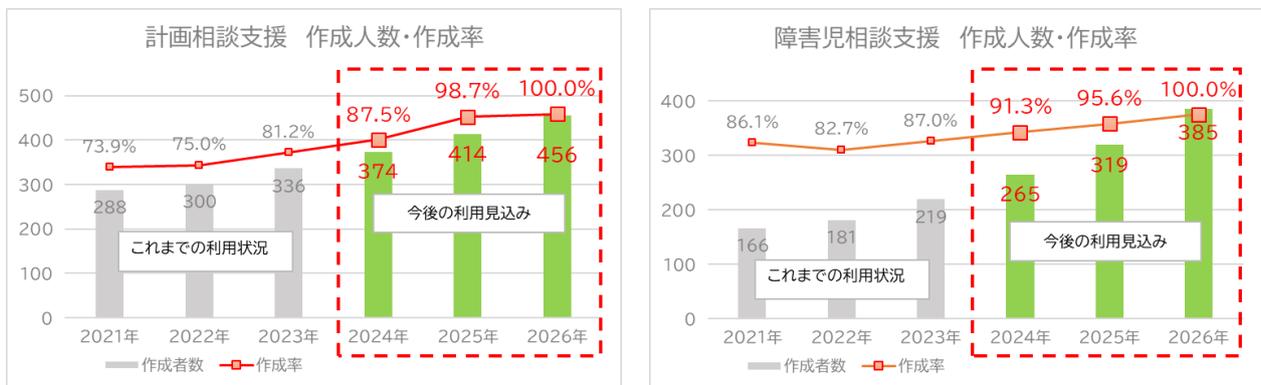


そのために尼崎市が取り組むこと

- ▶
- ▶
- ▶

ご本人の想いや希望もしっかりと伺いながら、サービスの利用に必要な計画をつくることや退院・退所後の生活のご相談にのることで、障害のある人が希望する生活へとつなげていきます。

これまでの実施状況と今後の見込み



そのために尼崎市が取り組むこと

- ▶
- ▶
- ▶

障害のある人やそのご家族などからのさまざまなご相談にのることで、安心した地域生活へとつなげていきます。



これまでの実施状況と今後の見込み

そのために尼崎市が取り組むこと

- ▶
- ▶
- ▶



これらのサービスを確保していくことなどで、達成へとつなげていく目標

個別事例の検討を通じた地域のサービス
基盤の開発・改善等を行う協議会の体制の確保

○○○○ . . .

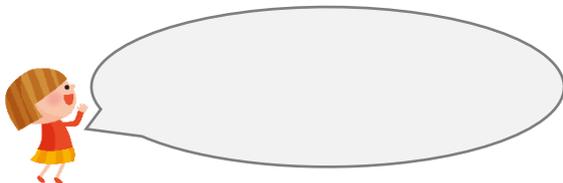
これまでの実施状況と今後の見込み

そのために尼崎市が取り組むこと

- ▶
- ▶
- ▶

〇〇〇〇・・・

(コメント)



これまでの実施状況と今後の見込み

そのために尼崎市が取り組むこと

- ▶。
- ▶。
- ▶。

〇〇〇〇・・・

これまでの実施状況と今後の見込み

そのために尼崎市が取り組むこと

- ▶。
- ▶。
- ▶。



2

障害者計画の進み具合

基本理念	重点課題	基本施策	施策の方向性	めざしている数値 (施策目標)	2019年度 → 20		
誰もがその人らしく、自立して安心して暮らすことができる共生社会の実現	1 できる必要な環境づくりが	1 健康に暮らす	(1) 医療、リハビリテーション	重 助 ※重症心身障害児者訪問看護療養費については、令和3年7月から福祉 助成対象となったことから、助成対象者や件数の計上方法に変更が生じ 今後、目標値等の再設定を行う予定。			
			(2) 精神保健に対する施策				
			(3) 難病等に対する施策				
			(4) 障害の原因となる疾病の予防・支援等				
		2 自立して暮らす	(1) 障害福祉サービス等			サービス等利用計画(障害児支援利 用計画)の作成率	70.8% → 1
			(2) 相談支援体制				
	2 できる自分らしい環境づくりが	3 育つ・学ぶ	(1) 療育	障害児通所支援事業所と 通学先、支援機関との連携状況	66.4% → 8		
			(2) インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育				
			(3) こころの教育・支援				
		4 働く	(1) 雇用機会	障害者就労支援施設の物品等の販売 会の実施回数	16回 → 2		
			(2) 多様な就労				
		5 住まう・出かける	(1) 生活環境	市内グループホームの定員数	453人 → 7		
	(2) 移動環境						
	6 地域でつながる	(1) 生涯学習活動 (スポーツ・文化芸術・地域交流)	身体障害者福祉センターと 身体障害者福祉会館の利用者数	28,742人 → 41,			
	3 できる安心して暮らすことが共に	7 安全に暮らす	(1) 防災対策	災害時に避難する場所の認知度	58.2% → 7		
			(2) 防犯対策、消費者保護				
		8 お互いを認め合う	(1) 権利擁護	障害者差別解消法の認知度	14.0% → 5		
			(2) 理解・啓発活動と差別解消				
9 伝える・知る		(1) 情報の利活用のしやすさとコミュニケーション 支援	市役所からの情報の取得状況	55.3% → 7			
	(2) 行政サービス等における配慮						



見開きのイメージ図（案）

26年度

医療制度の
ているため、

00%

6.3%

25回

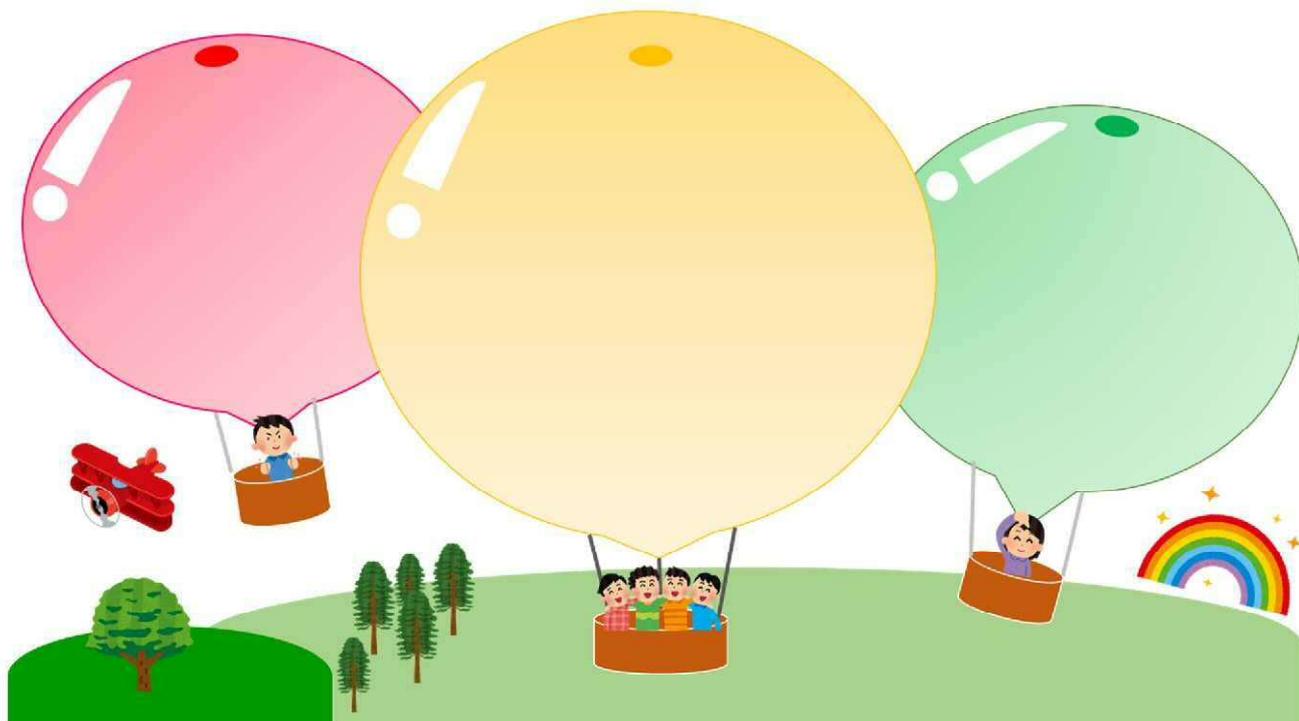
00人

848人

5.7%

0.0%

1.9%

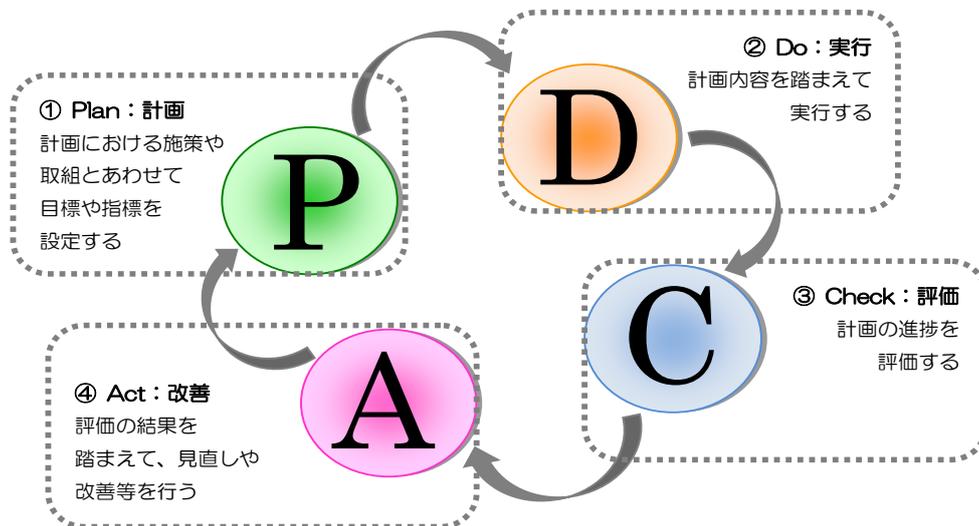


計画を進めていくために

尼崎市がこの計画に取り組んでいる間でも、社会の状況や障害のある人を取り巻く環境は常に変化していきます。また、近年多く発生している自然災害や新型コロナウイルス感染症の流行への対応などにより、障害のある人をはじめ、市民生活そのもののあり方にも大きな影響と変化が生じています。

これらのことも踏まえて、尼崎市ではこれまでも計画に取り組んでいる状況やその進み具合などを、毎年、障害のある人やそのご家族、地域で支援に携わる人などが参加する会議の場に報告して、その評価を受けてきました。

これからもこの取組を続けていきながら、どうしたらうまくいくかをみんなで話し合っ、この計画に書かれていることをしっかりと進めていきます。



この計画に書かれている取組などの具体的な内容を知りたい方は、別冊の「施策推進編」もあわせてごらんください。

裏表紙
(問い合わせ先 とか)